

クラス番号	607	担当教員名	伊藤 文人
テーマ	社会福祉と民衆の「ちから」／ムーブメント：社会福祉の国際比較		
著書・論文 研究課題等	研究課題：社会福祉／ソーシャルワークの歴史・価値・倫理・社会理論の国際比較研究 論文：'Performing managerial social work equals to the ethical matter?: a political context of Japanese social work' in Ferguson, I. and Lavalette, M. (eds.) (2013), <i>Critical and radical debates in social work</i>, Policy. 'The Rise and Fall of Professional Social Work in Japan: evolution, devolution and neoliberal turn?' in 『現代と文化』123号、「ソーシャルワークと社会正義」『総合社会福祉研』第32号		

ゼミナール概要

キーワード：民衆のちから（エートス）、ムーブメント、ソーシャルワーク、歴史的方法、国際比較の視点

【ゼミ概要】

社会福祉は、一般的に「国家／自治体が国民／住民に制度として提供するもの」と考えられていますが、国家や自治体が自動的に／一方的に国民／住民に提供するものではありません。社会福祉の歴史が示していることは、そこに必ず社会福祉を必要とする【問題】があり、それを要求する【民衆（私たち）】があり、その民衆が創り出す社会福祉への希望があった、ということです。社会福祉は、それを利用する【民衆のちから】がない場合は、非常に粗雑で、抑圧的になりがちです。本ゼミでは、社会福祉の具体的な中身を改善するひとつの契機として、【民衆（利用者）のちから】とその活かし方（ムーブメントの方法）を歴史と国際比較という手法を通じて読み解いていきます。換言すれば、民衆の多様なムーブメントがあって初めて社会福祉の内実は豊かになるのです。社会福祉を国際的文脈(他国との比較)の中で勉強したい人や「社会運動と社会福祉」の関係を知りたい人は面白いと感じるかも知れません。

【進め方】

- ①このゼミでは、きちんと「読む、書く、伝える」ことの「ちから」を身につけることを徹底します。ゼミでは、文献購読が中心となりますが、サブゼミに必ず所属し、毎回のゼミのスケジュールを微調整しながらゼミ運営を行ってまいります。
- ②卒業までに2年間で最低15冊の文献を読むことを義務付けます（これだけ読めば卒論は楽勝です！）。
- ③3年生は、レポート3回を義務付けます。
- ④毎年6月下旬には、日本福祉大学社会福祉学会へ出席を義務付けます。毎年8月下旬に、4大学合同ゼミに参加します。他大学の学生たちとの交流も勉強です。また2月中旬から3月中旬の間に1泊2日で春合宿を実施します。そこで卒論構想の発表を行います。
- ⑤卒業論文は、4年生の9月一杯で書ききるように指導します。10月以降は、国家試験対策を中心にゼミを運営します。かなりハードな印象ですが、本さえ読めれば楽勝です。
- ⑥適宜、ゼミコンパや他ゼミへの他流試合なども企画してもらいます（ゼミ積立金制度を創設、利用します）。

【ゼミ生からのメッセージ：伊藤ゼミとはこんなところ（らしい）・・・】

- ①自分の興味あるテーマをとことん追求してよい。調べた内容は提出すれば必ず添削してもらえるので、レポート執筆能力があがり、自信がつく！
- ②先生は優しいので、どんな質問にも答えてくれる。私たちを見捨てない！これは財産です。でも、マナー違反者（課題やらない人）にはたいへん厳しいのでそこは要注意！
- ③アクティブな活動大好き！ゼミ合宿企画、鍋パーティ、BBQなど、自由に発案・計画実行OK！

担当教員からのメッセージ



- ①「誰かがやってくれる」という人や「考えようとしないう」人、「行動しようとしないう」人は在籍しても辛いのでお勧めしません。苦労や失敗を共有して共に歩む意欲のある人を歓迎します。
- ②先輩・後輩の関係を大事にするゼミにしたいと思います。3／4年合同行事も実施します。
- ③歴代ゼミ学生は、社会福祉士資格をもって、地方自治体公務員（生活保護、児童相談所）、老健、福祉施設、福祉NPOなどで活躍しています。コツコツ努力すれば社会福祉士は必ず受かりますから、お互いに助け合って勉強しましょう。
- ④来年の1月30日か31日に新旧ゼミ生交流会を実施しますから、連絡先（メールアドレス）は必ず記入してください。
- ⑤志望動機、ゼミでの自分の役割、目標などできるだけ具体的に書いてください。